

『臨床倫理研修』 研修会実施報告

日時 : 令和2年11月7日(土) 9:30~16:00

対象者 : 看護師長およびラダーⅡ~Ⅳ

参加者数 : 51名

目的 : 部署における倫理的感性を高めるため、指導者的役割を果たせる

＜講師の紹介＞

公益社団法人日本看護協会
看護業務・医療安全課課長
緩和ケア認定看護師
梅内 美保子 先生



＜内容＞



はじめに倫理とは何か、「生命・医療倫理の4原則」を元に事例を用いて講義をすすめられました。「安楽死」に関する事例では、患者の余命が短いと予測される中で「人生の最期をどのように迎えるのか」「何が良い、正しい判断と行動になるのか」という内容から問題提起され、深く考えさせられる内容でした。次に、ケースカンファレンスの展開について講義があり、ファシリテーターの役割を含めてお話をしていただきました。カンファレンスをする上では「何のために議論をするのか」「どのぐらい大事なことなのか」その必要性とお互いの価値観を

共有する場にすることが大切であると述べられていました。そして、そのためには参加者全員の意見を引き出せるように視線を合わせることで、安心して自由に意見が言える雰囲気を作ることがファシリテーターに求められる役割であると学びました。メンバーの“知恵”や“やる気”を引き出し、深い納得に裏付けられた合意を実現させるためファシリテーターは重要な役割を果たす必要があるのだということを実感することができました。多忙になるとカンファレンスの機会を持つことがなかなかできなくなることがありますが、きちんとテーブルを囲まなくても、多職種がそろわなくても問題解決に向けた話し合いができていればケアにつながっていきます。この研修での学びを活かし様々な内容をスタッフが共有・意見交換し今後の看護につなげていきたいと思っております。